

平成25年度 第1回経済学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成25年10月4日（金）16：00～18：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：碓井委員、児島委員、山田委員
（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本

IV. 資料

① 平成25年度経済学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画

②-1 経済学教育における教育改善モデルについてアンケートの内容（Web回答用、メール回答用）

②-2 経済学教育における教育改善モデルについてアンケート集計結果

参考1 学士課程教育の現状と課題に関関アンケート調査の概要（平成25年8月 中央教育審議会資料）

参考2 これからの大学教育等の在り方について（平成25年6月 教育再生実行会議第三次提言資料）

参考3 教育振興基本計画（平成25年6月 閣議決定資料）

参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）

その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度の経済学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画について

資料の平成25年度事業計画書及び資料①の活動計画により活動計画の意識合わせを行った。

・平成25年度は、2回の委員会で能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるための検討を行う。

・そのため、サイバーFD研究員の先生方にアンケートを通じてご意見をお聞きし、意見を踏まえて見直しを行い、平成26年度にむけた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究する。

2. 経済学教育における教育改善モデルについてのサイバーFD研究員からの意見について

資料②-1により平成25年7月、9月に実施したアンケートの内容を報告。本日まで回答があった6件のご意見について内容を検討した。

なお、アンケートの回答は今後も受け付け、第2回委員会でご意見を踏まえた課題の整理、必要な見直しを行い、サイバーFD研究員へ情報提供、ネット上で意見交流を行うことで能動的学修の実現に向けた研究方針を決定し、平成26年度から具体的な研究を行うこととした。

3. アンケートの主な意見と検討について

②-2により「経済学教育における教育改善モデル」についていただいたアンケートの検討を行った。

（以下の○はいただいたご意見、*は委員会での検討内容）

(1) 経済学教育における学士力の考察の到達目標、到達度について

○ 第1節 第1文 「…は、地球上の有限で希少な資源を…」：太陽等からの電磁波やプラズマ粒子、元素や化合物の供給（？）が無視されている。現実エネルギー源として利活用しているとともに、生命活動もこれに大きく依存している。さらに、太陽風による電子・電気障害もある。

* ご指摘の通り、地球に限定しないので「地球上の」を削除する。

○ 到達目標1～5の相互関係を説明した方が良いのではないかと。

○ 到達目標3と4は逆ではないかと。

* 到達目標の考え方を、考察の表現の中で説明するよう表現を見直す。

○ 目標2の内容説明に「統計データを用いて科学的に経済の実証分析」とあるが、「科学的」であるための要件は統計データだけなのだろうか。そもそも経済史はtake-offあるいは資本主義経済制度が拓

大・定着する前の時期も対象とし、その時期は統計が未整備であることが多い。また、到達度の中に「経済現象の流れ」の理解があるが、「現象の流れ」とは何を意味するのだろうか。

- * 表現を見直し、修正する。
- 測定方法で、「関心」を用語理解とともに「質疑応答やアンケートなど」で測定することが提唱されているが、「関心」はより自発的な表明による方がよいのではないか。到達目標 1~5 の相互関係を説明した方がよいのではないか。
 - * 表現を見直し、修正する。
- 家計や企業の観点から国家の観点へ飛躍し、国家の観点からグローバルな観点へと飛躍しているため、ローカルな観点とリージョナルな観点が欠落しているものと思われる。
 - * 考察の中に地域の観点を入れ、見直す。
- ミクロ、マクロ経済学の理論的理解・表現力のみならず、統計学的な理解・表現力、及び、経済史的な問題（株式会社の歴史、単純な市場・自由経済体制から、社会主義的経済体制或いは調整された現代の市場重視の経済体制の変化等）についても、国際的な議論に通じうる理解・表現力を求める視点を打ち出す必要がある。
 - * 考察の中で表現するよう見直す。

(2) 経済学教育における教育改善モデルについて

教育改善モデルについては、肯定的な意見が多く寄せられたが、主な意見は以下の通り。

- 能力の説明の中で、「データ」や「理論モデル」が挙げられている。「データ」については、「数値」とともに「文書」さらには「遺物・遺跡」も含められなければならない。
 - * データには「数値」、「文書」、「遺物・遺跡」等も含むものとして考えている。
- デザインで挙げられている分野名には心理学、哲学・倫理学・宗教学なども含まれており、社会科学の枠も超えているように思われる。「経済学以外の社会科学を中心とする広範な学問領域」との協働を求めているように読める。
 - * ご意見の通り、広範な学問領域との協働を考えたモデルである。
- カリキュラム編成上でのこれらのモデルの位置付けは、講義にとどまらず演習・実習や各大学の教学上の特色との関連付けへの注意を、より強く喚起してもよいのではないか。
 - * ご意見の通りである。
- 経済政策に関心を持たせるためには、社会人の講義などは有効。単独では難しいため、大学間の共同組織で、連続招聘プログラムを設けたりオンラインで配信してもらうことが肝要。またファシリテータをどのように育成するかも課題。
 - * ご意見の通りなので課題として今後も継続して実現の研究を進めたい。
- 初修レベルの授業は、ある程度標準化することが望ましい。特に複数の教員で分担する場合は、標準化は不可欠である。
 - * 今後の課題であるが、提言では、大学連携でのクラウドによる共用試験などを紹介している。

(3) 改善モデルに必要な教育力、FD活動と課題について

概ね賛同を得られている。

4. 今後の検討について

今回の「大学教育への提言」はあくまで各大学で参考にしていただき、大学の実情に応じて利用できる部分を役立てていただくためのものであり、統制するようなモデルではないこと。今回の提言はあくまで各大学が実情に応じて参考資料、素材として利用していただくことを目的にとりまとめたものであることが誤解されているご意見もあり、継続して提言の趣旨をご理解いただくように努めることにした。

アンケートを反映した見直しと最終的な意識合わせは第2回委員会で取りまとめることにした。

5. 社会の動きを踏まえた能動的学修等の動向の意識合わせについて

参考1 学士課程教育の現状と課題アンケート調査の概要、参考2 これからの大学教育等の在り方について、参考3 教育振興基本計画等の報告に見られるように国・社会から様々な提言が行われており、大学に改革行動が求められていること、能動的な学びを実現する授業改善の取り組み、全学的な教学マネジメントの課題と対策、教員の教育力向上の課題、情報通信 技術（ICT）を活用した授業改善への取り組みと課題等について意識合わせを行った。

参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）等を報告し、学ぶ意欲さえあれば世界のトップレベルの大学の講義が受講できるようになっていること、既に米国MOOCでは世界中の800万人が学んでいること、日本でもJMOOCの動きがあること等について意識を共有化した。

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向け、「大学教育への提言」で提案した内容は文部科学省、中央教育審議会等の方向大学とも一致しており、このことを踏まえて平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究することを確認した。

6. 次回までの課題

- ① アンケートでいただいた意見については各委員が持ち帰り再度内容を読み返した上で検討し、次回の委員会で学士力、教育改善モデル等の見直しを行う。
- ② 意見をいただいた先生との交流、意見交換を行い、対面やネット上の交流会・研究会などが行えるように計画する。

7. 次回の委員会

日時：メーリングリストにて調整

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室